



みなと たちか
テクニカル本部マネージャー 湊 忠親

株式会社 秋田ケーブルテレビ

〒010-0976
秋田市八橋南1-1-3
TEL:018-865-5141
FAX:018-888-3511
<https://www.cna.ne.jp/>



H P

危機感から生まれた地域貢献への新たな挑戦

株式会社秋田ケーブルテレビは、秋田市や能代市など6つのエリアでテレビ、インターネット、電話などの情報通信サービスを提供している。時代とともに情報通信は多様化し、ニーズも刻一刻と変容する現状に強い危機感を抱いていたと語るのは、テクニカル本部マネージャーの湊忠親さん。「既存の事業に留まっていたら、急速な変化に取り残されてしまうため、地域に役立つ企業を目指したいと考えました。」と振り返る。

転機は3年前、秋田市を襲った豪雨災害だ。同社が提供する道路のライブカメラ映像がアンダーパスなどの冠水状況をリアルに伝え、住民からの喜びの声も多く寄せられた。この出来事を機に、地域の安心を守ることが自分たちの仕事であると再認識したという。また同時期の2023年4月に若手の女性社員を中心とした社内横断チーム「コト・ウル」が発足。このチームが中心となり、IoTを活用した防災・減災のプロジェクトを動かしていくこととなった。

自治体、そして民間企業へのサービス提供

この防災・減災のIoTサービスでは、監視・防犯のための撮影ができるものや、水位や積雪深、温湿度やCO2が計測できるものなど、さまざまなセンサーを取り揃えている。チームは県内の市町村に提案活動を行い、いくつかの自治体でサービスを提供中だ。特に社会問題となっているクマ被害においては、IoT自動撮影カメラを設置。箱罠にクマが入ったかどうかを実際に人が見に行く労力や危険を軽減することが可能だ。取得したデータはクラウドへ送られ、専用のダッシュボードで確認できる。また、現在では自治体のみならず、民間企業からの依頼も増えている。特に多いのが防犯カメラの設置だ。

湊さんは「私たちは情報通信サービス提供のスキームがあることで、すぐに駆けつけて解決できるという強みがあります。これからも、地域の方々の困りごとを解決し、役立てるような『コト』を生み出していきたい。」と意気込みを語ってくれた。



和気あいあいとダッシュボードを投影しながら打ち合わせをする「コト・ウル」チームのメンバー。



ソーラー充電ができる機器の電圧を測るメンバーの後藤花唯さん。技術経験はなかったが、今では中心メンバーだ。



研修を経て現地へ赴き、機器のメンテナンスなども行っている。